

スポーツを軸とした企業活動を通して、社会的な責任を果たしてまいります。

スポーツ・ファーストの想いを、社員自らが実践すること。

何よりもスポーツを一番に考え、心から愛し、自ら実践し、スポーツのチカラを信じる「SPORTS FIRST：スポーツ・ファースト」という私たちの想いの具現化。そのひとつが、今年の9月25日(金)から第4回目の大会が開かれる「UTMF：ウルトラトレイル・マウントフジ」です。毎年、ゴールドウインは特別協賛をし、同時に社員個人が選手として、スタッフとして、応援する観客としてさまざまな形で参加しています。選手としてだけでなくそれぞれの立場でこの一大イベントに関わることで、スポーツが持つ一体感や達成感、そして非日常の特別な感動を共有することができるのです。そこにあるのは、楽しさやおもしろさを越えた、奥深さだと感じています。これからもスポーツを軸とした企業活動を通して社会的な使命と責任を果たせるよう、いっそう自覚を高め、努力を続けてまいります。

スポーツ・ファーストの想いを、多くの皆さんと共有します。

私たちゴールドウインの想いである「SPORTS FIRST：スポーツ・ファースト」をより多くの皆さんと共有したいと考え、スポーツを一番に考えるウェブマガジン「SPORTS FIRST MAG：スポーツ・ファースト・マガ」を、今年の春より一般公開いたしました。ここでは、スポーツのチカラに引き寄せられるアスリートたちのインタビューや対談、私た

ちの店舗やイベント、商品開発などにこめられた想いとストーリー、スポーツ・ファーストのライフスタイルを実践するゴールドウイン社員のライフスタイルなどの紹介を通して、あらためてスポーツを一番に考えることで生まれる明るくて元気で前向きな生き方、その先にある健やかな社会の実現を目指してまいります。日頃からスポーツを愛する多くの皆さんにご覧いただけたら、うれしく思います。

障がい者スポーツへの支援を通して、スポーツにできることを。

2020年、オリンピック・パラリンピックが東京で開催されるにあたり、東京だけでなく、日本全体が大きく動き始めています。スポーツの社会的責任は、これからますます重要なものになってくると私は考えます。ゴールドウインは、2015年4月1日付で公益財団法人日本障がい者スポーツ協会とオフィシャルパートナー契約を締結しました。当社はこれまでチェアスキーや車いすバスケットボールなどの障がい者スポーツをウェア提供でサポートしてきました。また当社社員の鈴木孝幸(スピード事業部所属)は障がい者水泳において日本代表に選ばれ、世界大会において優秀な成績を収めております。それらの経験や実績を生かし、障がいをもつ誰もがスポーツに参加し、楽しめる環境づくりをサポートしてまいります。そして、このオフィシャルパートナー契約を通じて「日本の障がい者スポーツの発展、ひいては活力ある共生社会の創造を実現していく」という日本障がい者スポーツ協会のビジョン達成に貢献してまいります。

スポーツを通して、次世代を担う人材を育成しつづけます。

ゴールドウインは、次世代を担う子どもたちの心身を健全に育むスポーツの機会を、継続的かつ積極的に提供しています。30年以上支援しているジュニアスキーヤーを育成する「ナスターレース協会」の活動では、今年の4月にカナダで開催された国際スキー連盟公認のチルドレンレース「ウィスラーカップ」において国別対抗でU14では総合優勝、U16では総合3位という成績を収めることができました。他にも、スポーツを通してバランスの取れた人間形成を目指す「MIPスポーツゲームズ」をはじめ、テニスの「エレッセプレミアムデー」や「カタレ富山サッカー教室」、「ジュニアチャレンジゴルフ大会」の支援など、スポーツを通して子どもたちを育てる活動を続けられるのも、私たちが支援する活動が社会からも評価をいただけていることの証だと受けとめています。これからも、続けていくことの価値を大切にしております。

資源の有効活用と新製品の開発を、さらに進めていきます。

ISO14001の認証を取得している当社では、環境保護に関する「GREEN IS GOOD」というテーマを掲げた2008年以來、製造から販売までの過程において、環境負荷の低い材料を積極的に使用し、長く商品を使用いただくことこそが最大のエコであると訴求してきました。さら

に2013年から開始した「GREEN DOWN RECYCLE PROJECT」によってダウン製品を回収し、有限資源であるダウンの再利用を進めています。今年の5月から株式会社アイコジャパンとのパートナーシップにより、当社製品以外のメーカーやブランドの衣服も、その質や状態にかかわらず回収する取り組みを始めました。また、ウェア型トレーニングデータ計測デバイス「C3fit IN-pulse」では、東レ株式会社と日本電信電話株式会社が開発・実用化した機能素材“hitoe”を活用するなど、先端技術を採用した他社との協同開発などにも積極的に取り組んでまいります。

2015年7月

株式会社ゴールドウイン
代表取締役社長 西田明男



目次

トップメッセージ — 1
CSRに対する基本的な考え方 — 4

SOCIAL — 5

未来を担う子どもたちの育成や地域社会への貢献をつうじて、誰もがスポーツの楽しさを分かち合える社会を実現します。

THE NORTH FACE KIDS NATURE SCHOOL ～親子で学ぶトレイルランニング～/海外で活躍するチルドレンスキーヤーを育成する「ナスターレース チルドレン/キッズジャパンカップ」「FISウイスラーカップ」に協賛/プロ選手の指導で親子で楽しむ「カタレ富山サッカー教室」/「こども科学センター・ハチラボ」にて「スポーツウエアはすごい」展/「MIPスポーツゲームズ」を特別協賛/「試合がしたい」高校生たちの声を受けて始まったチャンピオンカップ/中学生の体験活動「社会に学ぶ“14歳の挑戦”」事業に協力/日本障がい者スポーツ協会とオフィシャルパートナー契約を締結/日本車椅子バスケットボール連盟のウエアをサポート/「ジュニアチャレンジゴルフ大会」で次世代のプレイヤーを育成/寛仁親王記念杯第16回北陸ウェルフェアゴルフトーナメントを開催/ゴルフ場のクローズ期間を利用して社員教育を実施/未来のテニスプロを夢見る子どもたちに、プレミアムなレッスンを開催

FAIR — 13

お客様とのコミュニケーションを大切に、企画から販売まで一貫したバリューチェーンで最大の市場価値を創出します。

ウエア型のトレーニングデータ計測用デバイス「C3fit IN-pulse」/店舗ごとに特色あるサービスを提供「ザ・ノース・フェイス」の店作り/素材と縫製を一体化させて防水透湿加工を行う技術、FUSEONEテクノロジーを用いた画期的なアウトターを発売/商品クレームに対する試験・調査完了までの日数を短縮/製品事故発生ゼロの更新/「サプライヤー行動規範」遵守の覚書を95%の仕入れ先と締結/接客と販売スキルを高めるロールプレイングコンテスト

CLEAN — 21

自然環境と生態系の保護はスポーツ・ファースト精神の根幹。「GREEN IS GOOD」を旗印に、持続可能な社会をつくりまします。

「アースデイ東京」に協賛するアースデイアクション/「ビーチクリーン作戦」で日本の海岸をきれいにする/使わない学校体操服を回収してリサイクル/2014年の環境活動報告/ISO14001認証取得/低炭素社会に向けての取組/循環型社会に向けての取組/自然共生型社会に向けての取組/緊急事態に対応できる訓練の実施

PASSION — 27

スポーツとともに情熱的に働ける職場環境を整備し、心身ともに健康とアスリートとしての矜持をまもりまします。

「SPORTS FIRST」を実践する社員を表彰するSPORTS FIRST AWARDS/多彩なクラブ活動/家族ぐるみで参加できるスポーツイベント/「元氣とやま健康づくり企業」に認定/時間外勤務削減をプログラム化し、ワークライフバランスを整える/身体もメンタルもベストにコンディショニング/福利厚生を販売社員にも拡充

OPEN — 33

コーポレート・ガバナンスや内部統制、コンプライアンスの体制を十分に整え、社会に開かれた経営をすすめて参ります

コーポレート・ガバナンス体制/内部統制システム ～業務の適正を確保するための体制/コンプライアンス研修 ～企業行動基準・従業員行動基準ガイドブック第2版配布

会社情報 — 35

CSRに対する基本的な考え方

SPORTS FIRST

「スポーツ・ファースト」というタグラインのもと、開かれた経営、顧客満足、社員育成、地域や社会への貢献、地球環境や生態系への配慮という五つの柱で、スポーツを通じた豊かな暮らしの実現と、社会の発展に寄与することをめざします。

● 企業理念

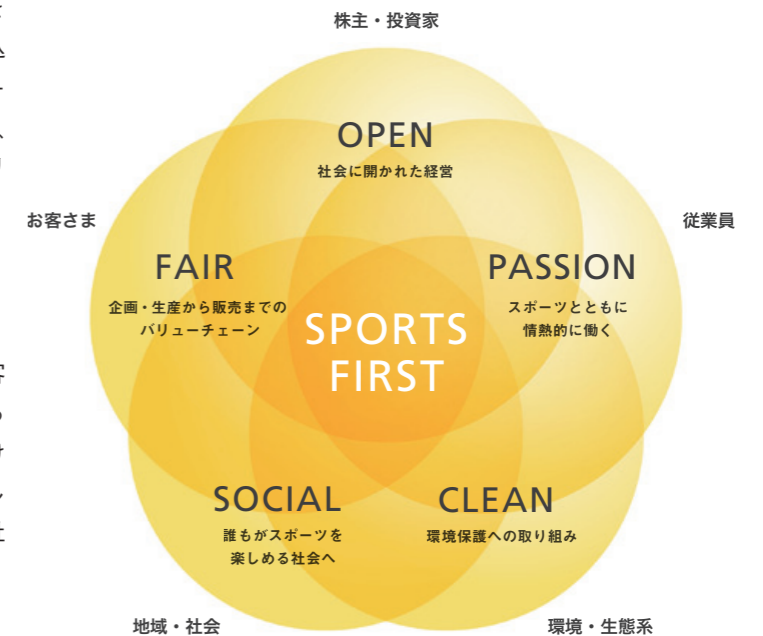
スポーツから、もっと健やかで楽しい明日へ。1950年の創業以来、「スポーツのある豊かな暮らしを築き上げること」を企業理念としてきたゴールドウインは、スポーツへの想いを込めて、2012年に新しいタグライン「SPORTS FIRST: スポーツ・ファースト」を掲げました。スポーツを心から愛し、実践し、その力を信じること。ゴールドウインはスポーツを通じてクオリティ・オブ・ライフの向上に寄与します。

● CSR基本方針

上場企業に求められる高いレベルでの経営の透明化、お客様の手に商品が届くまで、製造から販売に至るあらゆる段階で心を配ること、従業員がのびのびと健康に働きつづけられる職場環境づくり、そして地域・社会へのスポーツを通じた貢献や、地球環境・生態系への配慮。これらすべてを当社は「スポーツ」への敬意と情熱を通じて実現してまいります。

● CSR推進体制

当社の役員および関係会社代表が出席する「CSR推進委員会」を設置。CSR推進委員会で決定された基本的な活動方針は、グループ従業員全員に徹底され、各部門および個人レベルで具体的な活動を推進します。



CSRレポートについて

本レポートは、ゴールドウイングループについてより多くを知っていただくため、毎年発行しているものです。ゴールドウインのタグラインである「SPORTS FIRST」を中心に、CSRの五つの柱として定めた「OPEN」「FAIR」「CLEAN」「PASSION」「SOCIAL」に沿ってページを構成しています。当社は「身の丈にあった、継続的で、全員参加によるCSR推進活動」をモットーに、これからも積極的にCSR推進活動に取り組んでまいります。本レポートならびに当社のCSR推進活動に対するご意見、ご感想、ご要望などをお待ちしております。

※環境面への配慮から本レポートは印刷せず、当社ホームページのみでの公開としております。

報告範囲

対象期間: 2014年4月から2015年3月の活動を中心に、一部直近の活動を含みます。
対象範囲: ゴールドウイングループ全18社を対象としております。
発行: 2015年7月
発行責任者: 管理本部総務部
主要コミュニケーション媒体
ゴールドウイングループホームページ: <http://www.goldwin.co.jp/>
CSRレポート: <http://www.goldwin.co.jp/corporate/info/csr>
会社情報: <http://www.goldwin.co.jp/corporate/info/about>

SOCIAL

未来を担う子どもたちの育成や地域社会への貢献をつうじて、誰もがスポーツの楽しさを分かち合える社会を実現します。

田中博教 (THE NORTH FACE KIDS 原宿)

子供のころは川遊びや山遊びを堪能して育ったという田中さんは福岡県出身。店舗のアルバイトを経て入社し、現在は「都会と自然をつなぐもの」がコンセプトの「ザ・ノース・フェイス・キッズ原宿店」の店長を務める。自然を通して生きる力を育んでもらいたいという思いから、同店では2012年から小学

生と親を対象としたフィールドイベントをはじめた。「子供が外に出なくなったのは大人にも責任がある。自然に触れるきっかけが少ない子供たちを外に連れ出す方法をいつも考えています」と語る田中さんは、ご自身も二児の父親。子供をスポーツ好きにさせる秘訣は「勝ち負けではないことを教えること。自然

を前に勝ち負けはありません」という。2014年には10組の親子がテントに1泊し、2日で約20kmを歩く「信越ロングトレイル」を実施し、最後まで全員が無事に歩ききる大成功をおさめた。未来をつくる子供たちのサポートこそが、最大の地域社会への貢献かもしれない。



THE NORTH FACE KIDS NATURE SCHOOL ～親子で学ぶトレイルランニング～

未来の地球を受け継ぐ子どもたちに、自然に寄り添い生きる力を育んでもらいたい。そんな思いから当社は「THE NORTH FACE KIDS NATURE SCHOOL」を実施しています。その一環として2014年度は、7月19日に神奈川県・飯山白山森林公園にて「THE NORTH FACE KIDS NATURE SCHOOL Family Trail Running～親子で学ぶトレイルランニング～」を開催。講師として迎えたトレイルランニングの第一人者、鍋木毅氏

による実地レクチャーが行われました。参加者の大半はビギナーで、鍋木氏によるトレイルランニングのコツ「前半は一気に駆け上がり、後半はリズムカルに駆け下りる」を楽しく体験。「ダンスをするように下る」鍋木氏の実演もあり、トップアスリートの走り方を間近に見る貴重な機会となりました。子どもたちひとりひとりが鍋木氏から講評をいただき、初めてながらすっかりトレイルランニングに魅せられた様子でした。



海外で活躍するチルドレンスキーヤーを育成する「ナスターレース チルドレン/キッズ ジャパンカップ」「FISウイスラーカップ」に協賛

当社は1981年から35年間にわたって「ナスターレース(NASTAR RACE)」を応援し続けています。2000年からチルドレンを対象にした「ジャパンカップ」には16年間にわたり特別協賛を続けています。

2015年3月7日、8日に新潟県・苗場スキー場で開催された「第16回 ゴールドウイン ナスターレース チルドレン/キッズ ジャパンカップ」において上位成績を収めた選手10名はカナダで開催されるFIS(国際スキー連盟)主催「ウイスラーカップ」への参加権を獲得しました。



「ウイスラーカップ」は、毎年カナダ・ブリティッシュコロンビア州のウイスラスキー場で開催される12歳から16歳未満を対象にした国際大会。上位入賞者はヨーロッパの「トッポリーノ・トロフィー」にも招待される、北米最大級かつ世界最高峰のチルドレン大会です。当社が特別協賛する「第23回 ウイスラーカップ」(2015年4月3日～5日)では日本チーム選手が全競技で優勝・入賞者を輩出し、総合戦でもU14は総合1位、U16は総合3位という好成績を収めました。



プロ選手の指導で親子で楽しむ「カターレ富山サッカー教室」

2014年10月25日、富山県・小矢部運動公園にてサッカー教室を開催しました。当社がオフィシャルパートナーを務める「カターレ富山」の選手10名と育成スタッフがウォーミングアップ方法やテクニックを指導。小矢部市内の小学校4校で結成されたサッカースポーツ少年団に所属する親子138名が参加しました。サッカー教室の後には選手たちのサイン会も行われ地元富山の小学生と「カターレ富山」との間に強い絆が生まれました。



「こども科学センター・ハチラボ」にて「スポーツウエアはすごい」展

東京都渋谷区教育委員会が運営する「こども科学センター・ハチラボ」にて、2014年10月8日から11月24日まで「スポーツウエアはすごい」というテーマで展示を行いました。2013年5月に世界最高齢でエベレスト登頂を成功させた三浦雄一郎氏のウエアなどを、実際に触れたり着用したりできるように工夫。スポーツウエアの保温性、軽さ、空気や水への抵抗の軽減がどのように実現されるのかを科学的に解説するなど、子どもたちの好奇心を刺激する展示内容につとめました。展示期間中には講師を招いてのワークショップも開催し、大勢の親子連れでにぎわいました。



「MIPスポーツゲームズ」を特別協賛

スポーツを通じた子どもたちの健全な育成のため、2002年より当社は特定非営利活動法人MIPスポーツ・プロジェクトが開催する「MIPスポーツゲームズ」を特別協賛しています。このイベントはトップアスリートの指導により、子どもたちの将来のスポーツライフをより豊かにする“きっかけ”を与えることを目的としています。各地域でスポーツに携わる企業や団体、施設と連携をとり、スポーツクリニックをはじめ、その地域のニーズにあったプログラムを実施しています。2014年度は鳥取県鳥取市、岐阜県下呂市、山形県山形市、三重県いなべ市の全国4ヵ所で開催され、のべ1713名の親子が参加しました。



「試合がしたい！」高校生たちの声を受けて始まったチャンピオンカップ

高校のバスケットボール部が毎日の活動成果を発揮する「チャンピオンカップ」は2010年度にスタートしました。10回目を迎えた今大会は、過去最大となる東京、名古屋、大阪、福岡、札幌の5都市で開催され、男女各8チーム、計16チームがそれぞれの都市での頂点を目指して戦いました。そしてさらなる頂点を決める決勝大会がバスケットボールの聖地、国立代々木第一体育館にて開催されました。

試合の機会が少ない高校生たちは最初のうちは会場の雰囲気にも圧倒されていたものの、時間とともに緊張もほぐれ、日ごろの練習の成果を発揮し、思い思いに楽しんでくれたことと思います。



中学生の体験活動「社会に学ぶ“14歳の挑戦”」事業に協力

インターンシップの受け入れ

子供をとりまく社会環境が激変するなか、規範意識や社会性を獲得することを通して豊かな心を育むため、富山県小矢部市内の4つの中学校が2年生を対象に行っている体験活動「社会に学ぶ“14歳の挑戦”」事業に協力しています。「地域の子供は地域が育てる」という趣旨に賛同し、スポーツウエア生産の下準備作業という体験活動に場所を提供し、指導ボランティアを行いました。また、高校生のインターンシップとして富山県立高岡工芸高校2年生の参加がありました。



日本障がい者スポーツ協会とオフィシャルパートナー契約を締結

継続的に誰もがスポーツに参加し、楽しめる環境づくりをサポートするために、当社は2015年4月1日から日本障がい者スポーツ協会とオフィシャルパートナー契約を締結しました。協会スタッフのウエア提供から当社社員によるボランティア活動などを通じてサポートしていきます。

その活動の一環として、「2015 ジャパンパラウィルチェアラグビー競技大会」の会場設営に2015年度入社の新入社員がボランティアとして参加し、パネル床設置やライン引き、車椅子のタイヤ拭き作業などを行いました。



日本車椅子バスケットボール連盟のウエアをサポート

2014年10月より一般社団法人日本車椅子バスケットボール連盟(JWBF)のオフィシャルサプライヤーとして、日本代表チームのウエアのサポートを開始しました。同連盟は「車椅子バスケットボール競技の普及及び振興、そして身体障害者の健全な心身の養成と社会参加及び障害に対する社会の理解を促進し、バリアフリー社会の実現に寄与すること」を目的としています。当社はこの趣旨に賛同し、日本代表チームをサポートしてまいります。



「ジュニアチャレンジゴルフ大会」で次世代のプレイヤーを育成

小学校4年生から高校生までの日本ゴルフ協会(JGA)ジュニア会員登録者を対象に、次世代のゴルフプレイヤーを育成するための「ジュニアチャレンジゴルフ大会」を毎年開催しています。第5回目を迎えた2014年は8月7日に富山県小矢部市のゴルフ倶楽部ゴールドウインにて行われ、小学生29人(男子18人、女子11人)と中学生11人(男子8人、女子3人)の計40人が参加して技を競いました。



寛仁親王記念杯第16回北陸ウェルフェアゴルフトーナメントを開催

2014年10月16日に富山県小矢部市のゴルフ倶楽部ゴールドウインにて、「寛仁親王記念杯第16回北陸ウェルフェアゴルフトーナメント」が開催され、126名の方が参加しました。この大会は、障がい者福祉への正しい理解を深める活動の推進とプレイヤーの育成を目的としており、当社もその開催に毎年協力しています。寄付金と大会の収益金は、今年はNPO法人「ケーネット知楽市」に寄贈されます。



ゴルフ場のクローズ期間を利用して社員教育を実施

防災訓練

通報から避難誘導、避難までの一連の流れと、消火栓や消火器を用いた放水・防火訓練を実施しました。

コンプライアンス研修

個人情報・社外秘漏えい、パソコンの扱い、インサイダー取引や労務管理の違反事例からコンプライアンスの視点と法律知識を学び、風通しのよい職場づくりを目指すよう意志統一を図りました。

AED・心肺蘇生法講習

万が一に備え、傷病者が発生しても社員がみずから迅速に対処できるよう講習を実施しました。

テーピング講習

足首捻挫をメインに、テーピングを行なう際の的確な応急処置法について教育実習を実施しました。

安全衛生委員会報告、事故報告・防止策

毎月開催される安全衛生委員会の報告を行い、ゴルフプレーにおける転倒、打球、カート走行時の事故、従業員による労災の報告と、対応策についての確認を行いました。



未来のテニスプロを夢見る子どもたちに、プレミアムなレッスンイベントを開催

エレッセがオフィシャルパートナーをつとめる「東レ パン・パシフィック・オープンテニス2014」の目玉イベントのひとつでもある「エレッセプレミアムデー」。

全国から寄せられた多数の応募の中から抽選で選ばれた50名のジュニア達が、世界を舞台に戦う20名ものプロテニスプレイヤーたちから直接コーチを受け、プロの技術・スピード・戦略を間近で学び、プロの世界を体感するという貴重なレッスンイベントとなりました。中にはプロを凌駕するほどの素晴らしいプレーをする子どもたちも。この中から、日本を代表するような選手が生まれてくることを期待します。



平山壮一（事業統括本部 ゴールドウイン事業部）

ハイパフォーマンスウェア専門ブランドC3fitに立ち上げ時から関わった平山さん。高校・大学時代はラグビー部で、大学の専攻は化学。福岡のアウトドア販売の部署から大阪への転勤を経て、このブランドの立ち上げに参画した。C3fitのブランド名の由来は3つのC、すなわち「段階着圧で働きかける〈Compression〉」「身体機能を整える〈Conditioning〉」「あらゆる動きを快適にサポートする〈Comfort〉」。その新製品であるトレーニング計測用デバイス「IN-pulse」の戦略的位置づけについて、平山さんはこう語る。「IN-pulseは既存の市場にない先進性の高いアイテム。こうした新しいアイテムを提案し続け、ブランドイメージの確立につなげたい」。開発からランチングまで、平山さんが手塩にかけて育てたIN-pulse。このウェアが伝える脈動がスポーツのイメージを変えるかもしれない。



お客様とのコミュニケーションを大切に、企画から販売まで一貫したバリューチェーンで最大の市場価値を創出します。

ウェア型のトレーニングデータ計測用デバイス 「C3fit IN-pulse」



ゴールドウインのハイパフォーマンスウェア専門ブランドC3fitは、東レ株式会社・日本電信電話株式会社、NTT-docomo株式会社とともに、ウェア型のトレーニングデータ計測用デバイス「IN-pulse」を開発・実用化しました。これは着るだけで心拍数や心電波形といった生体情報を収集できる新素材hitoe™（ヒトエ）をスポーツウェアに用いたもので、専用のトランスミッターとスマートフォンを連携させることで、着用時の心拍数をアプリに表示することができます。

「IN-pulse」の特設サイトでは、スマートコーチングの安藤隼人氏（代表）と安藤真由子氏に心拍とス

ポーツの関係を語っていただいたほか、このウェアを着用したランナーから送られてきた心拍データがリアルタイムに音楽とビートに変換されていく様子を映像化したプロモーションムービー「HEART BEAT MUSIC」や、自身の心拍数からカルボネン法による「運動強度」を簡単に割り出せるコーナーも設置。「IN-pulse」のプロモーションにあたっては「心拍計測」という概念を打ち出し、効果的なトレーニングや戦略的なレース、日常の健康管理のために心拍を測る習慣をスポーツを愛するすべての人に提案してまいります。



店舗ごとに特色あるサービスを提供 「ザ・ノース・フェイス」の店作り

多様化するお客様のニーズに応えるため、THE NORTH FACE(ザ・ノース・フェイス)の店舗では、店舗ごとの個性をさらに打ち出す取り組みをスタートさせました。

「THE NORTH FACE STANDARD 二子玉川」(2014年10月オープン)

「STANDARD OF LIVING PACKAGE」をコンセプトに、自然と都市が融合する街である二子玉川という立地を活かし、街中でもアウトドアスタイルを楽しむユーザーに向けて機能とデザインが融合した製品と空間をトータルで提案。店内にはファミリーでゆったりと時間を過ごすカフェも設置しています。



「THE NORTH FACE KIDS 原宿」(2014年12月オープン)

「奥深い山の中に現代文明と共存しながら佇む山小屋」をイメージしてデザインされた、子ども向けアウトドアショップです。大人用と同じ素材・デザインのウエアやシューズを扱い、親子二世代で楽しめる店舗を演出。自然や環境を見つめ直し、自然に寄り添いながら「生きる力」を育むイベントなどを開催しています。



「THE NORTH FACE GRAVITY NISECO」(2014年12月オープン)

北海道倶知安町のホテル「ミュージアム・ニセコ」内に開業。バックカントリーに対応した高品質で高機能なウエア・グッズなどを取り揃え、夏季には川下りやトレッキング用の商品を展開。急増す

る海外からの訪日観光客に対応するため、従来店より大きめのサイズのウエアを用意しています。



「THE NORTH FACE 昭島アウトドアヴィレッジ」(2015年3月オープン)

緑豊かな郊外に位置する、新しいスタイルのショッピングモール「モリパーク アウトドアヴィレッジ」にオープンした新店舗です。機能とデザインが融合したザ・ノース・フェイスのウエアをはじめ

とする製品と空間をトータルで表現し、次世代の「ホリスティック・アウトドアスタイル」を提案します。



「THE NORTH FACE MAN」(2015年4月オープン)

JR大阪駅直結の商業施設「ルクア イーレ」にオープンした男性向け専門店です。“北カリフォルニアに暮らす、アウトドアスポーツを軸にした、こだわりのライフスタイルを送る一人の男”をテーマ

に、ウエアだけでなくアウトドア、アート、音楽、本など幅広いアイテムを展開しています。



素材と縫製を一体化させて防水透湿加工を行う技術 FUSEONEテクノロジーを用いた画期的なアウターを発売

当社はこれまでの「接着」や「超音波溶着」といった無縫製技術をさらに進化させ、「素材」と「縫製」を一体化させて画期的な防水透湿加工を行う「FUSEONEテクノロジー」を用いた商品化に成功しました。この技術を用いると従来のシームテープによる針穴の目貼りが不要になるため、柔らかさ、軽量性、動きやすさを実現できるほか、デザイン面でもしなやかで美しいフォルムを実現できます。「FUSEONEテクノロジー」を用いた防水透湿アウターは「THE NORTH FACE」と「HELLY HANSEN」の2ブランドで展開しています。



商品クレームに対する試験・調査完了までの日数を短縮

カスタマーサービスセンターには毎年多くのお問い合わせをいただいておりますが、その中には「商品へのクレーム」があります。当社では顧客満足度を高めるため、社内試験・調査に要する日数の短縮に取り組んでまいりました。担当者への継続した教育に

よるレベルアップと過去の事例のデータベース化が進んだことで、2014年度は2008年度比約30%短縮することができました。今後もさらに短縮を目指します。

製品事故発生ゼロの更新

当社では品質保証部の重点課題として、「製品事故発生ゼロの更新」を進めています。商品異常が発生した際は原因追究と対策を徹底して進め、同様の問題が発生しないようブランドを横断してその内容を伝達。ヒューマンエラーがないよう、品質会議等を通じて慎重な「ものづくり」の徹底を指導しています。また違法表示や誇大表示を未然に防ぐため、2014年度は「機能性

表示・品質表示」のチェックを200件以上実施。さらに「機能性表示・品質表示の指摘事項(誤表示・不適表示)」一覧を品質会議で解説し、社内ポータルにも掲示して指摘事項の低減をめざしています。その結果、2011年度から4年連続で製品事故発生「0」件を更新しました。

「サプライヤー行動規範」遵守の覚書を95%の仕入れ先と締結

公正なルールに則った企業活動を、仕入れ先となる海外生産委託先にも遵守してもらおうと、当社では「サプライヤー行動規範」を定め、「法令遵守」「労働及び人権」「安全衛生」「環境保全」「安全・安心な製品の生産」「情報管理・公正取引・倫理」につ

いてのルールを明文化しています。2014年度は、仕入れ先のうち95%と「サプライヤー行動規範」の覚書を締結しました。今後も国外の生産従事者のため、よりよい労働環境を整備することをめざしてまいります。

接客と販売スキルを高めるロールプレイングコンテスト

当社では店舗でのお客さまとの良好なコミュニケーションをはかるため、販売員の意思統一と販売スキルの向上を目的とする「接客ロールプレイングコンテスト」を行っています。各ブランドからの推薦を受けて全国から選ばれた販売スタッフがお客様の来店からクロージングまでを実演し、「好感度」「あいさつ・お声掛け」「言葉遣い」「商品情報・専門情報」「会話力」「ニーズチェック」「提案力・説得力」「クロージング」「お見送り」をチェックポイントとして採点されます。本年度はのべ12名が参加して2014年11月19日に開催され、1名に最優秀賞、1名に優秀賞、10名に敢闘賞が授与されました。また今回は増加する外国からの観光客に対する接客力を強化するため、「荷物にならない軽いTNFダウンを購入しに来店した外国人のお客様」を想定した英語によるデモンストレーションを初めて実施。このデモを見て販売社員は外国からの来店者に対する対応方法を学びました。



CLEAN

自然環境と生態系の保護はスポーツ・ファースト精神の根幹。「GREEN IS GOOD」を旗印に、持続可能な社会をつくります。

北海道出身の五十嵐さんは、子どもの頃から野球小僧。高校でも野球部に属し、本気で甲子園を狙っていた。大学では洋弓部に移り、関東大学リーグで初の一部昇格を果たした。ゴールドウイン入社後は広告宣伝部を皮切りにさまざまな部署を経て、自然環境保護を目的として回収したダウン(羽毛)のリサイクルを行う「グリーンダウンリサイクルプロジェクト」の責任者に。「2年前から直営店の店頭で回収を実施しはじめました。いまは店頭からの情報発信やホームページを活用した啓蒙活動を実行している段階です。どのブランドの服でも、すべての衣類を回収する新たな『GREENCYCLE』もはじめています」と語る五十嵐さん。このほかにも石油から製造した場合と同レベルの高純度の原料に再生する「ケミカルリサイクル」という仕組みや、なるべく環境負荷の小さい素材を使用して商品化する「GREEN MATERIALの活用」を実施し、自然環境保護への企業の責任を果たすよう努めている。

五十嵐一成 (事業統轄本部 商品部)



「アースデイ東京」に協賛するアースデイアクション

1970年から続くアースデイ(地球の日、4月22日)は地球のため、未来のために行動する日です。その一環として毎年開催されている「アースデイ東京」は日本最大の市民イベントで、2015年も4月18日、19日に東京の代々木公園で行われました。当社はこのイベントに今年も協賛しブースを出展、売上の一部を自然保護基金(コンサーベーション・アライアンス)に寄付しました。また「アースデイ東京」の間中は、直営店でバイオマス、風力、太陽光、地熱などによって発電した「グリーン電力」の購入や近隣の清掃活動等を行いました。



「ビーチクリーン作戦」で日本の海岸をきれいにする

当社は2005年より各地のビーチを清掃するビーチクリーン作戦を実施しており、本年度は2014年7月12日に富山県氷見市の松田江海岸にて実施しました。松田江海岸でのビーチクリーン作戦は今回で9回目となります。ビーチクリーン作戦の目的は、すべてのスポーツが自然の恵みを受けていることを認識し、自然環境に対する意識を高めること。砂浜に打ち上げられたゴミを丁寧に拾い集めた約150名の参加者全員には、HELLY HANSENの折りたたみカップが記念品として配布されました。



使わない学校体操服を回収してリサイクル

2011年より、使わなくなった卒業生の学校体操服を回収し、石油から精製したときと同じ品質のポリエステルに再生させるといいうリサイクル活動を行っています。参加校は高岡工芸高等学校、

泊高等学校、桜井高等学校、金沢学院東高等学校、太田第一高等学校、逗子開成中学校・高等学校となり、長袖ジャージ上・下やハーフパンツなど、のべ479着を回収しました。

2014年の環境活動報告

ゴールドウイングループでは「環境基本理念」と「環境方針」を定め、持続可能な社会実現のための行動計画を作成し、環境パフォーマンスの継続的な改善に取り組んでいます。

環境基本理念・環境基本方針

<http://www.goldwin.co.jp/corporate/info/csr/clean#section-D>

ISO14001 認証取得

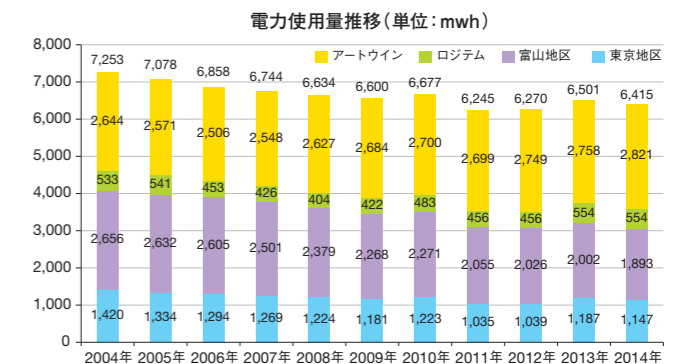
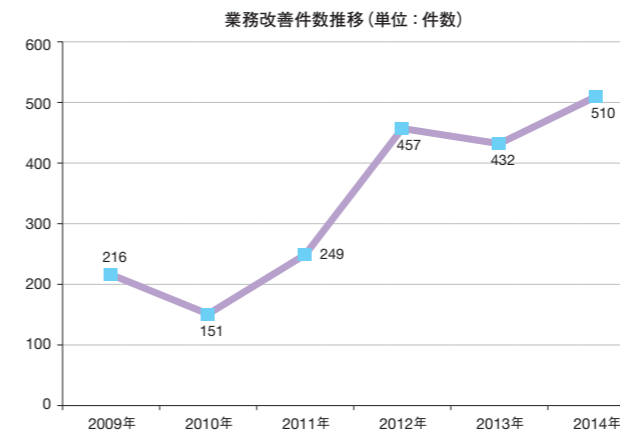
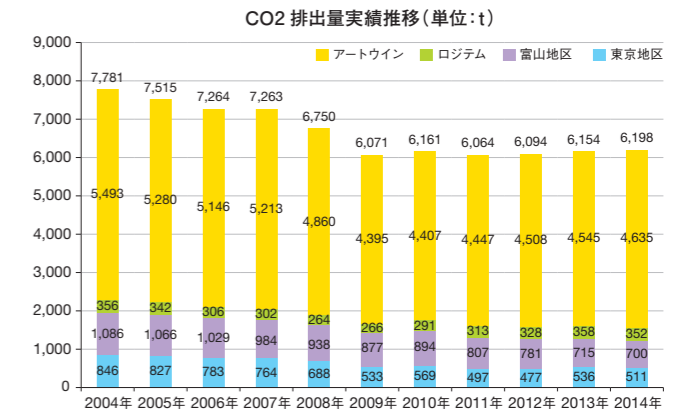
ゴールドウイングループは富山地区にて、スポーツアパレル業界で初めて1999年11月にISO14001(環境マネジメントシステム)の認証を取得しました。環境保全活動・環境配慮商品の開発と省資源による事業効率向上とを両立させるため、2006年2月にはゴールドウイン全事業所と染色センターがISO14001の認証を取得。さらに2008年7月にはゴールドウインロジテム

が、2011年8月にはカンタベリーオプニュージーランドジャパンが、2013年9月にはブラックアンドホワイトスポーツウェアが、同様にISO14001の認証を取得しています。当社の経営方針のひとつである「きれいな経営」を実践し、雇用・経済活動にくわえ、環境に配慮した商品・サービスの提供を通じて社会に貢献してまいります。

低炭素社会に向けての取組

CO2排出量の削減

省エネルギー活動の一環として、当社では電気・ガス・重油・ガソリンの使用量削減に取り組んでおり、電力使用量削減のため、各部門で時間外労働時間削減や業務改善活動も実施しております。2014年のCO2排出量は6,198CO2tで対前年比101%という結果になりましたが、これはアートウインにおける生産増にともなうものであり、生産量に対するCO2排出量の割合では対前年比で減少しております。



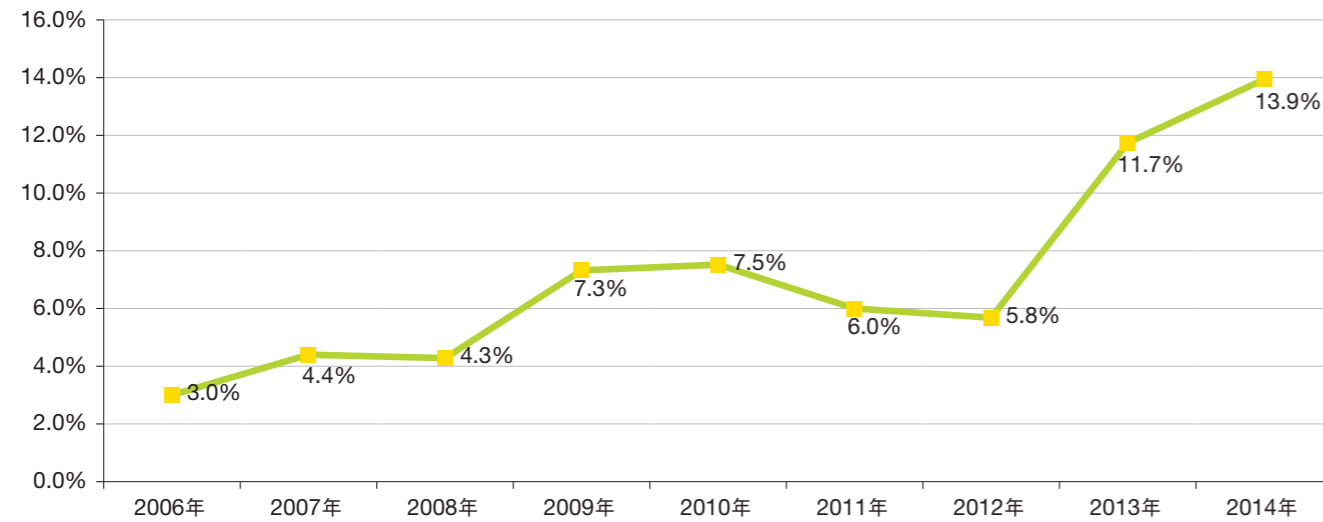
循環型社会に向けての取組

人の健康と環境にやさしい商品の開発・販売

当社は「GREEN IS GOOD」のコンセプトのもと、環境配慮商品の開発・販売を積極的にすすめております。商品を長く使用していただけるよう修理体制を充実するとともに、2009年からは商品のリサイクルも開始しました。さらに2013年秋より

「GREENDOWN RECYCLE PROJECT」の名の下に、使用後のダウン(羽毛)を新たな製品の原料にリサイクルする取り組みもスタート。「GREEN IS GOOD」に認定された商品の販売比率は、2014年度には売上高の14%弱にまで達しています。

環境配慮商品販売比率推移表

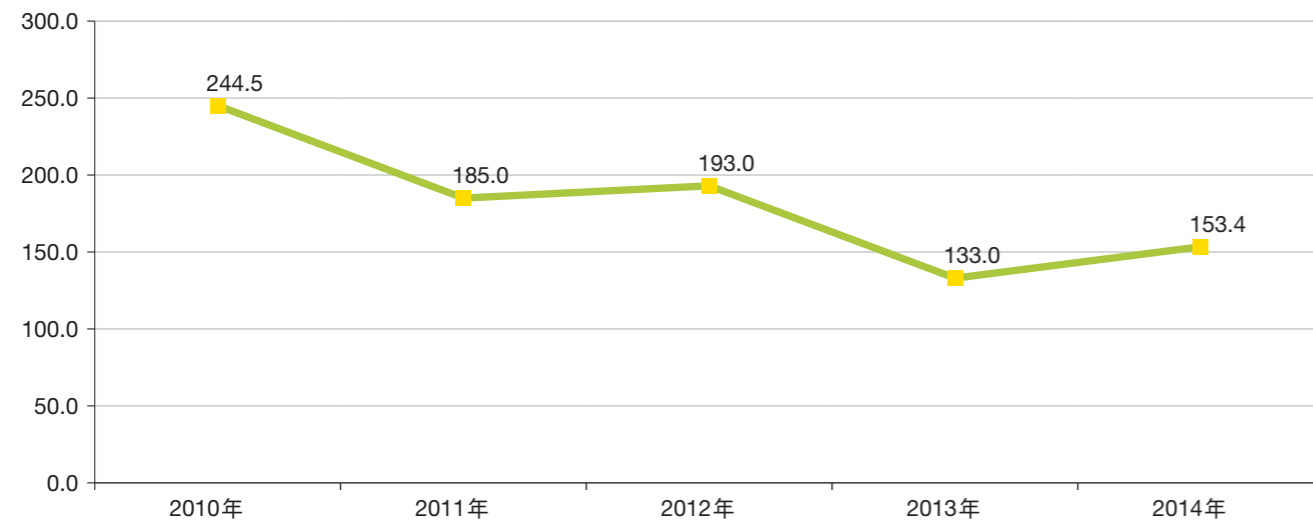


産業廃棄物の削減

当社では製造から販売までのすべての段階で、産業廃棄物の削減に寄与する取り組みを行っています。富山地区では、分別の徹底により排出されるごみのすべてを再資源化。このほかごみの減量化のため、生地染色再加工程率や製品返品率の低減、余

剰生地の再利用に務めるほか、安全で快適な職場をつくるための5S活動(整理・整頓・清潔・清掃・しつけ)を全社一丸となつて推進しています。

廃棄プラスチック排出量の推移(単位:t)



省資源活動の推進

限りある地球資源を有効活用するため、当社では省資源活動を推進しています。物流梱包資材の削減につとめるほか、設計段階や生産段階での原材料使用量の歩留まり改善活動に取り組み、2014年度は歩留まり改善件数65件という成果を得ました。

自然共生型社会に向けての取組

地域社会と共存できる企業

環境保全のために行動できる人づくりを推進するため、環境教育・学習を積極的に行っています。THE NORTH FACE HELLY HANSEN鎌倉店でのヨットの廃セールを利用したエコバックを作成するワークショップなど、年間16回のイベントを開催。また2014年度も地域内清掃活動を積極的に行い、12回の実績を得ました。



緊急事態に対応できる訓練の実施

ゴールドウイングループでは、ISO14001の要求事項である緊急時への準備及び対応のための訓練を実施しています。「緊急事態の可能性」として特定している事項は、ゴールドウインロジテムの地下重油タンクでの事故です。万が一、ここでの給油時に油漏れ事故が発生すると、通じている農業用水の溜め池に流れ込む危険があるため、緊急事態に対応できるよう訓練を毎年実施しています。



PASSION

スポーツとともに情熱的に働ける職場環境を整備し、心身ともの健康とアスリートとしての矜持をまもります。

西野美加 (事業統括本部 ノースフェイス事業部)

富山県生まれ。小学校から高校まで陸上選手だったという西野さんは、2015年2月にノースフェイス事業部のアパレルチームに異動となり、情熱的に働いている。「私が就活していたころはファストファッションの全盛期。使い捨てのような服が氾濫するなかで、機能性やディテール、設計が語れるような

服が作りたいとずっと思っていました」。富山での勤務時代は仕事仲間と登山をはじめサッカー、キャンプ、バックカントリー、ヨガなどを体験。2014年にはトレイルランニングもはじめた。「一緒にスポーツをすることで、ふだん話さない方たちとも極限状態を共有することで一体感が生まれる」。よい仕事をする

ために不可欠な心身の健康に、スポーツは欠かせない。「この会社の魅力はスポーツのおかげで、みんな若々しくてフットワークが軽いこと」と語る西野さん。スポーツを愛する仲間とともに働くことで、明日への活力が生まれてくるのだ。



「SPORTS FIRST」を実践する社員を表彰するSPORTS FIRST AWARDS

当社は「SPORTS FIRST」という考えを実践している社員を表彰するため、社内サイトにて「SPORTS FIRST AWARDS」という投票を行いました。全社員に投票権があり、得票数上位の3名に「GOLD AWARD」「SILVER AWARD」「BRONZE AWARD」を授与します。2014年度に「GOLD AWARD」を獲得したのは事業部統括本部の村井絢子。2009年4月にノースフェイス事業部に異動となった村井は、ウェアの企画チームに配属になったことをきっかけにトレイルランニングへの挑戦をはじめ、現在は国内外の100マイルレースに参加していることが評価されました。

「SPORTS FIRST」を伝えるためのスポーツを一番に考えるWEBマガジン「SPORTS FIRST MAG」は下記URLからご覧いただけます。 <http://sportsfirst.jp>

村井絢子「GOLD AWARD」受賞メッセージ

受賞の知らせを聞いたときは本当に驚きました、趣味を謳歌していて表彰してもらえるなんて、なんて良い会社なのだろう!と(笑)。ゴールドウインに入り、それまで自分の知らなかった様々なスポーツの世界を知っていく中で出会ったトレイルランニング。この受賞の背景には、いつも仕事もスポーツも一生懸命楽しんでいる先輩方のお手本があったのと、忙しい時期にも関わらず、有給休暇を取って挑戦しに行くことを快諾し、背中を押してくれる上司の存在がありました。トレイルランニングはわたしにとって、競争ではなくてひとつの冒険のかたち。わたしは今後の人生もずっとトレイルランニングを楽しんでいきたいと思います。



村井絢子(事業統括本部 ノースフェイス事業部)

多彩なクラブ活動

スポーツは心身の健康はもちろんのこと、人と人を楽しさや喜びでつなげることができる——そう信じる「スポーツ・ファースト」の精神のもと、東京地区、大阪地区、富山地区のいずれにおいてもクラブ活動を積極的に推奨しています。東京地区では新たにヨガ部も設立され、部署や立場を越えたコミュニケーションの輪を広げています。

現在活動中のクラブ

東京地区 アウトドアクラブ/ゴルフ部/サッカー・フットサル部/テニス部/フィッシング部/マウンテンクラブ/モーターサイクル部/ランニングクラブ/健脚クラブ/自動車部/野球部/庭球倶楽部/ヨガ部

大阪地区 サッカー部/マウンテンクラブ/野球部

富山地区 アスレチック同好会/剣道クラブ/ゴルフ同好会/テニス部/サーフ&スノー同好会/ソフトボール部/百名山同好会/フットサル同好会/モータースポーツ同好会/野球部/ヨガ同好会



ヨガ部(東京)



アスレチック同好会(富山)



百名山同好会(富山)



アウトドアクラブ(東京)

家族ぐるみで参加できるスポーツイベント

毎年秋に東京地区で行われる「うんどうかい(運動会)」は、2014年度は10月18日に読売ヴェルディのグラウンドで開催されました。参加者は社員339名、家族73名。青、赤、黄、緑、紫、白の6チームに分かれての熱戦が繰り広げられ、参加者には個人賞としてMVP賞、ハッスル賞などが授与されました。



「元気とやま健康づくり企業」に認定

富山県では県内の企業における健康づくりの取り組みを後押しし、将来にわたって健康寿命をのばすことを目的にした「元気とやま健康づくり企業」応援事業を2014年度から実施しています。当社の商品開発・商品調達を担うゴールドウィンテクニカルセンターはその第1回表彰企業の認定を受けました。高い健診受診率、保健指導率、敷地内禁煙、社員食堂でのヘルシーメニュー、富山県内で行われたリレーラン大会での優勝、運動会・ヨガ教室による運動習慣の定着などが評価されました。



時間外勤務削減をプログラム化し、ワークライフバランスを整える

「オン」と「オフ」のメリハリが効いた健康的な生活を送らなければ、仕事に情熱を注ぐことはできません。時間外勤務を削減するため、当社では勤怠管理体制の強化、週に1回の「NO残業DAY」の実施、時間外勤務削減のプログラム化などを積極的に行っています。オーバーワーク気味の社員に対しては産業医を交

えての指導、上長への指導を行い、2014年度は、過剰労働者数前年比30%減を達成。2013年から始まった、土日を絡めた有給消化の「マイホリデー政策」を強化し、2014年はいっそうの定着を図ることに成功しました。

身体もメンタルもベストにコンディショニング

社員がつねに実力をフルに発揮できるよう、心身の健康管理と病気予防・早期発見に全力を注いでいます。オーバーワーク気味の社員にヒアリングを実施し、問題点を改善する「心とからだの健康相談室」を開設。全国どこからでも、何時でも産業医や保険師とメールでやりとりできる体制を整えています。健康診断

の受診率は3年連続で100%を記録しており、「心とからだの健康相談室」を実施することで、国民の4%が精神的な不調に罹患しているというデータがあるなかで当社は1%未満に抑えられています。

J-ESOP導入により社員に株式を給付

当社では今年度より「株式給付信託(J-ESOP)」を導入し、一定の要件を満たした社員に株式を給付する取り組みを開始しました。この制度の導入により、当社従業員の株価及び業績向上への関心が高まり、経済的な効果を株主の皆様と共有しつつ、

これまで以上に意欲的に業務に取り組むことが期待されます。当社では、このほかにも販売社員の株式持株会や永年勤続表彰制度導入など、社員がよりアクティブに業務に取り組むことのできるよう、福利厚生を充実させる様々な施策を行っています。

コーポレート・ガバナンス体制

ゴールドウイングループは、公正かつ効率的な企業経営の実現と、激変する経営環境へのスピーディな対応を目的として、コーポレート・ガバナンスの充実を、経営の最優先課題としております。

取締役の職務責任を明確にするために、その任期を1年と定めています。取締役会は原則として月1回の頻度で開催されますが、必要に応じて不定期でも開催されます。取締役会では法令で定められた事項および重要事項の決定を行うとともに、業務の執行状況を監督し、その進捗報告を実施いたします。なお、取締役8名のうち、1名は社外取締役であります。(6月25日に開催された株主総会にて社外取締役2名を含む10名の取締役が選任されました)

取締役会が任命する執行役員は各々の領域で委譲された権限のもと、取締役会が決定する経営戦略にもとづき業務を執行します。取締役と常勤監査役、執行役員で構成される経営会議は、事業執行に関する重要事項などを審議決定するために、原則として月1回開催されます。

監査役会は4名で構成され、うち3名は社外監査役です。監査役は取締役会で意見を述べ、取締役の業務執行状況の監督を行うことによって、健全な経営と社会的信用の向上に努めます。

内部監査を担当する内部監査室は、他の業務執行組織から独立しています。その客観的な立場より、法令および社内規程の遵守状況の確認を行うとともに、業務と経営効率の改善/向上、内部統制システムの運用状況のチェックを行い、その結果を代表取締役、業務執行取締役および常勤監査役に報告します。

東京証券取引所においてコーポレートガバナンス・コードが制定され、上場規程として2015年6月1日より適用されております。当社はコーポレートガバナンス・コードの各原則を尊重し、これらを適切に実行してまいります。コーポレートガバナンス・コードへの対応状況等については、準備が完了次第、コーポレートガバナンス報告書で開示する予定です。

内部統制システム

～業務の適正を確保するための体制

当社は経営方針、タグライン「SPORTSFIRST:スポーツ・ファースト」、および行動規範に示される経営戦略ミッションをゴールドウイングループ全役員によって具現化するために、適切な組織の構築、規程・ルールの制定、情報の伝達および業務執行のモニタリングを行い体制として内部統制システムを整備・維持しています。また、内部統制システムは適宜見直し、改善を行い、適法かつ効率的に業務を執行する体制の確立を図っております。

内部統制システムの基本方針

<http://www.goldwin.co.jp/corporate/info/csr/open#section-C>

企業行動規範・従業員行動基準

<http://www.goldwin.co.jp/corporate/info/csr/open#section-E>

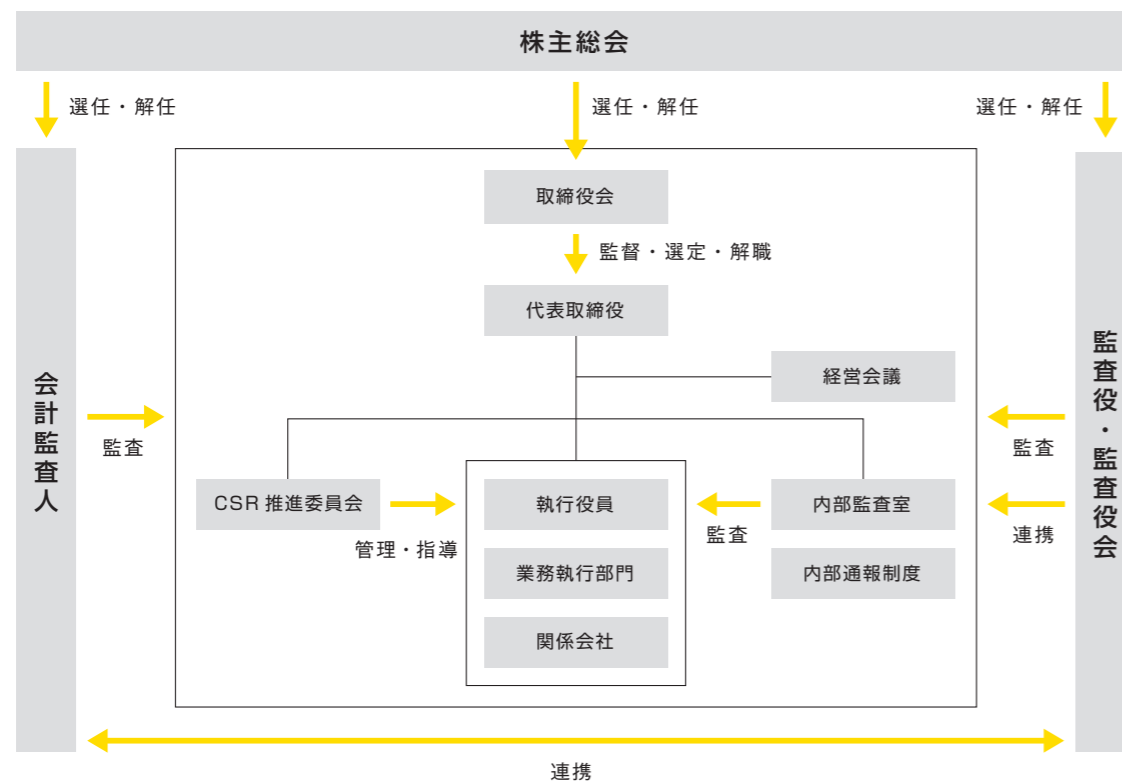
コンプライアンス研修～

企業行動基準・従業員行動基準ガイドブック第2版配布

当社では2008年に「企業行動規範」と「従業員行動基準」を改定し、企業に求められるコンプライアンスへの理解を深めるための社員研修を継続的に実施しています。2014年度は「企業行動基準・従業員行動基準ガイドブック第2版」を配布し、法令や会社の規程を遵守し倫理的に行動することを約束する「誓約書」に全役員および全従業員が署名しました。この「企業行動基準・従業員行動基準ガイドブック第2版」の理解・利用促進を図るために、2014年度にはコンプライアンス研修を39回

にわたり実施し、履修率は87.5%でした。

また前年度よりSNS利用時のリスク情報を提供する「SNSメールマガジン」を発行してきましたが、2014年度からはさらに範囲を拡げ、「コンプラマガジン」を3巻発行して社員のコンプライアンス意識向上に寄与するための情報提供を開始しました。またすべての従業員には倫理的な行動の指針となる携帯用の「コンプライアンスカード」を配布し、常時携帯するよう指導しています。



会社情報

- 株式会社ゴールドウィン
GOLDWIN INC.
- 東京本社
〒150-8517 東京都渋谷区松濤
2-20-6
TEL 03-3481-7201(代表)
- 本店
〒932-0112
富山県小矢部市清沢210
TEL 0766-61-4800(代表)
- 設立
昭和26年12月22日
- 資本金
7,079百万円
(2015年3月31日現在)
- 年商(連結ベース)
57,417百万円
- 年商(個別)
48,680百万円
- 従業員
1,471名(グループ 2,181名)
- 事業所
本店、東京本社、大阪支店、札幌
営業所、名古屋営業所、福岡営業所
(2015年4月1日現在)
- 会社概要詳細
<http://www.goldwin.co.jp/corporate/info/about/>
- ホームページ
<http://www.goldwin.co.jp/>
- 決算公告・決算短信
<http://www.goldwin.co.jp/corporate/info/ir/>

経営指針

1. 強い経営

経営資源の選択と集中を強め、キャッシュ・フロー経営の視点から、経営体質を強化し企業価値を高めます。

2. 速い経営

顧客ニーズの変化に俊敏に対応、商品企画から調達・販売までのプロセスを短縮化し、その運用システムを構築します。

3. きれいな経営

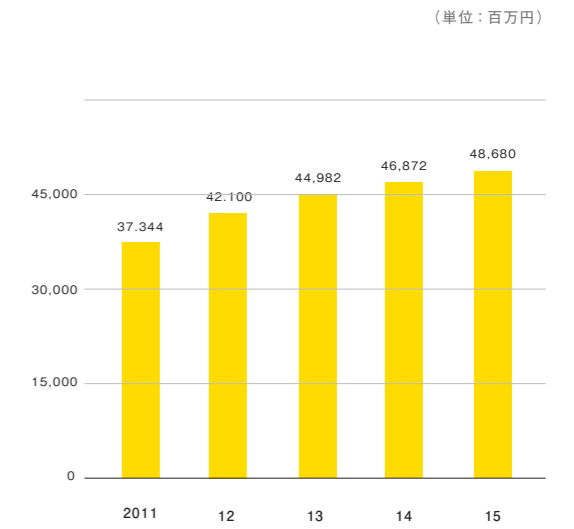
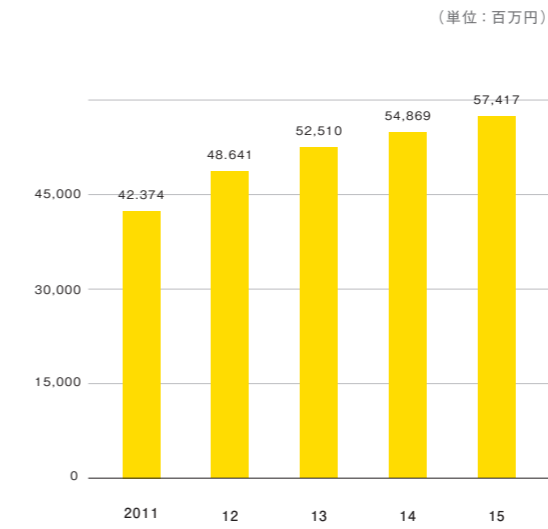
情報開示の透明性と環境への配慮を重視し、社会的に開かれた企業を目指します。

経営情報

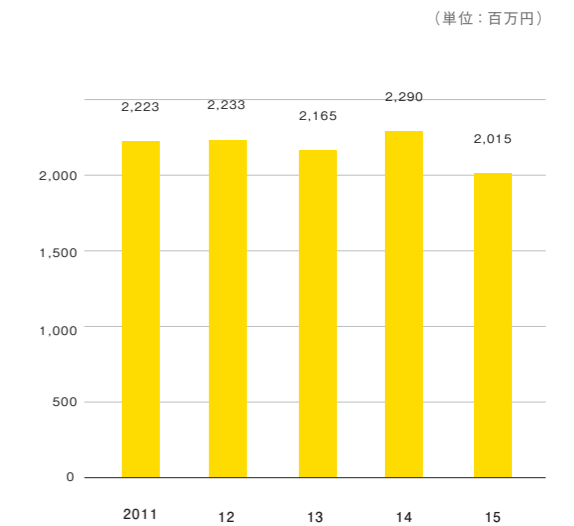
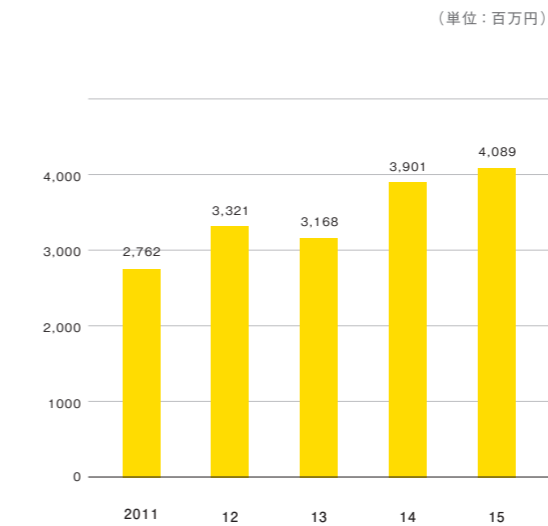
連結

個別

売上高



経常利益



当期純損益

